

施策の方向性A「文化にかかわる環境づくり」

①芸術文化を鑑賞等できる機会の充実

事業名	実績・評価
<p>舞台鑑賞会 (能・狂言、 上方芸能、歌舞伎)</p>	<p>【事業実績など】 (能・狂言) ・参加者数：1,536人(うち青少年654人) ・初めて鑑賞した人の割合：集計中 (上方芸能) ・参加者数：530人(うち青少年128人) ・初めて鑑賞した人の割合：32% (歌舞伎鑑賞授業) ・参加校数：10校 参加者数：948人</p> <p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】 ・能狂言部門では、昨年度の盛況ぶりを受け、1公演増の全4公演を実施し、目標参加者数800人を大幅に上回る1,536人の来場者を記録した。特に「初心者とたのしむ能狂言」では、スマートフォンを活用しイヤホンでリアルタイム解説を受けられるシステムを導入したことにより、伝統芸能への敷居が下がり、初心者や若年層の理解促進に大きく寄与したと評価できる。 ・上方芸能部門では、「対決！上方伝統芸能バトル」と題した企画により、上方落語と他の伝統芸能を比較しながら鑑賞する新たな試みを実施したが、目標参加者数800人に対して530人と若干の集客不足となった。新規受託者による広報・運営面での課題が一部見受けられるため、発注者である大阪市文化課には、今後の円滑な事業運営に向けたフォローアップを期待する。 ・歌舞伎部門では、目標参加者数800人に対し948人を記録し、概ね達成の結果となった。今後は、参加校の募集方法の工夫を通じ、より多くの子どもたちに鑑賞の機会を提供する取組みを継続してほしい。 ・上方芸能は大阪が世界に誇る舞台芸術であり、その伝統や文化を実際に体験し学ぶことは、文化の本質的な価値を理解する上で非常に重要である。これらの文化芸術活動が社会に与える波及効果や、観光資源としての可能性、都市魅力の根幹形成に寄与する点を広く伝え、文化芸術が社会にとって欠かせない存在であることを学ぶ機会として、今後も継続的な取り組みが期待される。</p>
<p>舞台鑑賞会 (演劇)</p>	<p>【事業実績など】 ・大阪市立阿倍野区民センターにおいて、2公演実施 ・来場者数合計：計676人</p> <p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】 ・本年度に開催された演目「マグナとふしぎの少女」は、参加型の新感覚児童演劇として、迫力あるCGや英語学習の要素を取り入れ、ストーリーに合わせた専用のスマートフォンアプリを活用し、鑑賞者が一緒に参加できる仕組みを導入しているため、従来の受動的な鑑賞から、参加型の体験型イベントへと進化し、鑑賞体験にインタラクティブな魅力を付加している点が評価される。 ・午後の講演後に実施されたワークショップでは、歌唱ワークショップ「英語で歌おう We are friends！」と、工作ワークショップ「デコパージュ！マグナ！」の双方が定員を満了し、参加希望者が殺到した点は、本イベントの魅力と訴求力の高さを示している。歌唱ワークショップでは、英語学習と演劇の要素を融合させた参加型プログラムが、来場者に新たな視点を提供し、鑑賞後も積極的に演劇文化に触れる機会を創出した。工作ワークショップでは、参加者が創造的な体験を通じて作品制作に没頭できる内容となっており、イベント全体の文化芸術への関心を一層高める効果が期待できる。 ・チケット料金は、一般券1枚で大人1名と高校生以下1名が入場可能とするなど、家族参加を促す柔軟な設定となっており、必要に応じて追加の子ども分を購入できる仕組みが整備されている点が、広く市民に受け入れられる要因となっていたのではないかと。 ・専用アプリのダウンロードおよび使用に伴う個人データの取り扱いと利用許諾について、利用者向けの説明が十分ではなかった印象があった。今後、同様の取り組みを行う際は、プライバシー保護のために、もう少し丁寧な情報提供や利用許諾の確認をするのが望ましい。</p>
<p>博物館施設運営交付金 博物館施設整備費補助金</p>	<p>【事業実績など】 6館入館者数1,691,791人(令和6年12月末時点) 大阪市立美術館地下展覧会室改修工事ほか23件の工事を実施</p> <p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】 ・入館者数は令和元年度並みに回復し、コロナ前の水準に近づいている。プロモーションや大阪関西万博に向けた準備が効果を発揮しており、今後も積極的な取り組みを継続してほしい。 ・定点観測やアンケート調査は着実に実施されており、今後はそのデータを基にターゲティング・セグメンティングを行い、効果的な広報戦略の策定に活用してほしい。 ・日本訪問前からの情報収集による潜在顧客の開拓に大きな余地があることから、引き続きその取り組みを重視してほしい。 ・中長期的な視点に立ち、ニーズの変化に対応するとともに、補修・保護・継承に必要な予算の確保を継続的に実施し、事業のさらなる発展に努めてほしい。</p>

②芸術文化を将来へ継承発展させる子どもや青少年が成長する機会の充実

事業名	実績・評価
中学生が参加するコンサート	<p>【事業実績など】</p> <ul style="list-style-type: none"> 中学生が参加するプログラムの参加人数 22校 473人（2月27日現在） <p>【今後の予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> 2月28日(金)～3月25日(火) 参加校への訪問指導（19校が希望） 3月16日(日) 合同練習会（@大フィル会館） 3月26日(水) 演奏会本番（@ザ・シンフォニーホール） <p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> 少子化の影響により中学校の吹奏楽部員数が減少し、大規模アンサンブルが困難となる中、大阪市内の中学校から選抜された生徒がプロのオーケストラと合同演奏を行う機会を提供している点は、生徒にとって非常に価値ある取り組みであり、高く評価する。 本年度は22校から473名の生徒が参加し、うち19校が事前指導を受けた。事前設定した参加者上限400名を超える参加者であったが、大阪市文化課および受託事業者である大阪フィルハーモニー交響楽団は可能な限り多くの生徒が参加できるように柔軟に対応した。この生徒受け入れへの努力を特に評価したい。 事業実施者選定に関しては、公募型プロポーザルを実施しているが、実質的に応募が1社のみという現状である。今後はより多くの事業者が参加できるように、公示開始の際、関西圏の日本オーケストラ連盟正会員及び準会員にあてて参加を積極的に促してほしい。また、現状の委託予算では、本番開催は可能でも合同練習用の練習場確保に経済的課題があるため、適切な予算措置の検討を行うことが求められる。 コンサートの選曲が毎年類似した曲目に偏りがちなため、生徒に新たな挑戦を促す選曲も取り入れてほしい。事業終了後のアンケートを通じて、生徒や顧問教員からのフィードバックを収集・分析し、それをプログラムの改良に活かし、参加者のニーズに応じたより充実した内容となることを期待する。
舞台鑑賞会 中高生のための文楽 夏休み親子ペア文楽	<p>【事業実績など】</p> <ul style="list-style-type: none"> 文楽鑑賞教室については、26校、2,018名の小中学生が参加。 文楽特別公演「夏休み親子劇場」については、2,500名の親子が参加。 <p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「文楽鑑賞教室」は、目標参加者数2,700名に対して実績が2,018名（26校）と目標に届かなかった。義務教育下においては、昼食時間の制約や劇場内での飲食不可といった参加上の課題が浮き彫りとなったため、今後は劇場や関係団体と協議し、学校が参加しやすい演目構成や上演時間の見直し、用地等の検討を進めてほしい。 「夏休み親子劇場」では、目標参加者数2,200名に対し、実際には2,500名の応募があり、劇場側の配慮により応募者全員の受け入れが可能となった点を評価する。メディア報道で本事業が紹介されたことが寄与している可能性があるため、今後も多様なメディアに取り上げてもらえるよう工夫し、文楽や劇場の認知度向上に努めてほしい。 また、子どもたちが鑑賞の機会を得るためには、本人の意志だけでなく、教師や親御さんなど大人の判断が大きく影響する。今後の広報活動においては、文楽鑑賞だけに留まらず、ポップスやロック、国語や歴史といった他分野との関連性を強調することで、大人たちの興味を喚起し、結果としてより多くの子どもたちに文楽との触れ合いの機会の提供に努めてほしい。
こども本の森中之島 運営事業	<p>【事業実績など】</p> <p>令和5年度の入館者数は、132,185人（開館日数308日・1日あたり約429人）であったが、令和6年度は12月末時点で99,680人（開館日数233日・1日あたり約428人）であり、前年度と比較すると、入館者数はほぼ横ばいとなっている。</p> <p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> 本施設は本の配置やテーマ別分類に工夫があり、読みたくなる仕掛けを施している。また、新刊や他施設にはない珍しい本を多数取り揃えることで、他の児童図書館との差別化を図っている。イベントの積極開催、職場体験の受け入れ、高校生の自作絵本の読み聞かせ、大学生によるワークショップや演奏会など、多様な活動を通じて、良質で多彩な文学・芸術文化への接触機会を提供しており、その充実した活動を高く評価する。 入館者数については前年度の約13万2千人からやや減少傾向にあり、目標達成ラインはほぼ達成であるが、これは当施設の認知度が一定水準に達し、新規来館者の増加が落ち着きを見せる安定期に入ったことと表れとも捉えられる。 現在の来館者層は主に親子連れが中心で、中高生の単独利用や成人層、特に平日昼間の高齢者層の利用が少ない状況である。今後は他施設との連携を強化し、親子以外の幅広い層を対象としたイベント企画など、来館者層の拡充を目指した取り組みを推進する必要がある。 イベント的な来館が主流であるため、リピーターの定着が課題となっている。施設内の「面白い本」と出会える工夫は評価できるが、習慣的な訪問を促すために「クラブ活動」や放課後の居場所としての地域連携（学童保育など）を実施するなど、日常的な利用を促進する仕組みの検討を進めてほしい。 現状は施設も新しく、運営も順調であるものの、5年から10年の間に施設の老朽化が課題として浮上することとなる。特に、安藤建築のユニークな設計のため、将来的な改修作業が非常に大変になることが予想される。このような背景から、将来に向けた財源の確保と収入源の多様化が必要になると考える。

③芸術文化を支える市民意識の醸成

事業名	実績・評価
芸術・文化団体 サポート事業	<p>【事業実績など】 令和6年度寄附件数・収入金額（R7.3.4時点）：109件・5,651千円</p>
	<p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと寄付金制度の改正に伴い、リーフレットの改訂やポータルサイトの掲載など、広報・情報提供の工夫が図られ、登録団体や本事業の認知度向上に寄与した点は評価に値する。 ・しかしながら、今年度の寄付件数目標150件に対し、実績が109件（寄付金額5,651千円）と目標を大きく下回っており、コロナの影響が薄れるとともにクラウドファンディング等の代替手段の普及が一因と考えられる。 ・日本における寄付文化の醸成は容易ではないが、確立された制度が寄付者に提供するメリットは大きいと、寄付による文化芸術への波及効果や寄付者自身の利点を明確に伝え、ポジティブな印象を植え付ける取り組みが今後必要である。 ・また、本事業の成功は、登録団体が提供される機会をいかに活用するかにより大きく依存するため、大阪アーツカウンシルや大阪市などの事業と連携し、寄付の呼びかけを促進する講座等の継続的な支援体制の整備が求められる。 ・さらに、寄付獲得に積極的な団体に対してヒアリング調査を実施し、その成功事例や取り組み内容を他の登録団体と共有することで、寄付の呼びかけがより積極的に行われ、本事業の活用促進につながることを期待したい。

施策の方向性B「文化が都市を変革する」

①芸術文化を創造する人材や支える人材の育成・支援

事業名	実績・評価
芸術活動振興事業 助成金	<p>【事業実績など】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チラシ等、配布先を増やした結果が申請数が5年度と比べ増加した。 ・6年度より一般助成Bを新設。より水準の高い公演に助成することができた。 ・特別助成の申請件数は61となり、目標を達成できた。
	<p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本助成制度は、多様な文化芸術活動やその担い手を支え、国際文化都市としての大阪の発展に不可欠な取組みとなっている。個人アーティストや民間の文化芸術団体・法人にとって、大阪市および大阪アーツカウンシルとの交流の機会を提供している点は高く評価できる。 ・令和6年度より、従来のコロナ対応予算拡充から本来の予算（約6,300万円）に戻る中で、一般助成A（上限20万円）、一般助成B（上限50万円）、特別助成（上限400万円）の3種類に助成枠を拡充し、総予算が約1億1,600万円に引き上げられたことは、現場のニーズに即した制度設計への改善として大きく評価したい。 ・広報面では、HPやSNS等による積極的な情報発信に加え、従来の送付先に加えて、近年の採択活動の実施会場などへのチラシ送付が行われた結果、申請件数が昨年度に比べて増加し、特に特別助成の申請件数は61件と目標を大きく上回る成果を収めた。これにより、本助成金の認知度が向上したことは評価に値する。 ・しかし、一般枠と特別枠では出演料など対象経費の範囲に大きな違いがあり、本来は一般枠での申請が適切な活動であっても、特別枠に申請されるケースが散見される点は課題である。また、アートマネジメント人材にかかる費用については、幅広い市民に文化芸術の魅力を伝える機会の創出に不可欠であるにもかかわらず、現行制度では計上が認められていない。一般枠と特別枠の間で、活動内容や実施方法が大きく異なる現状を踏まえると、対象経費を含めて対象経費などの制度を統一した方が、申請者側と大阪市文化課のニーズに合わせるものと考えられる。今後、制度設計の見直しを行う際には、この点を十分に検討していただきたい。 ・さらに、クラウドファンディングをはじめとする自己資金調達が増加する中で、これら自助努力で集めた資金を活動収入に含めると、助成金交付額が減少する場合や、最悪の場合交付金額が0円になるケースが発生している。自己資金の取扱いについて、対象活動の資金調達と運営全体の収入とをどのように区別するのか、今後の審査基準の見直しが必要である。
咲くやこの花賞 受賞者等支援事業	<p>【事業実績など】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度新受賞者を決定し、音楽部門をのぞく4部門の受賞者出席のもと贈呈式を実施した。 ・令和5年度受賞者4部門について、咲くやコレクションを実施した。 ・咲くやこの花賞認知度：87% ・各公演の満足度：95% <hr/> <p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「咲くやこの花賞」は、大阪ゆかりの多様な文化芸術人材を顕彰し、大阪の文化芸術に対するシビックプライドを高める、極めて重要な取組みである。 ・無料招待枠700名に対し、応募者数が2倍以上となったことは、従来の往復ハガキ方式からウェブ申込方式への移行が功を奏し、集客力の向上に大きく寄与したと評価する。 ・贈呈式は、単なる賞の授与にとどまらず、イベント性が高く、参加者に記憶に残る体験を提供した。特に、受賞者のトークセッションはその人柄が際立ち、広報活動を通じて魅力が効果的に伝達された点が評価される。 ・一昨年度から、より透明性の高い運営を目指し、公募型プロポーザルを導入したが、現状では提案が1社に限定されている。事業者選定からイベント実施までの期間が限られていることから、受賞者のスケジュール調整やイベント内容の確定に課題が見受けられる。引き続き、大阪市文化課が事前に受賞者と調整を行い、コレクションの実施時期の目安を設定するなどの対策を考えて欲しい。また、これまでの贈呈式やコレクションの費用内訳を公開することで、より多くの提案事業者がアイデアを持ち寄り参画する手助けとなりうるものと考えられる。 ・小規模事業者や設立間もない事業者にとって、事業完了後の精算となる現在の支払い方式は、事前に自己資金で立て替える必要があり、経済的負担が大きく参画を躊躇する要因となっている可能性がある。各イベント終了ごとに部分払いを実施するなど、支払い条件に柔軟な配慮を行うことで、これから文化事業の受託に挑戦する事業者の参画促進につながると思われる。

<p>大阪文化賞 大阪文化祭賞</p>	<p>【事業実績など】</p> <ul style="list-style-type: none"> 大阪文化賞…一般推薦50件、推薦件数30件の中からR6.12選考委員会にて受賞者1名を決定しR7.3に贈呈式を開催。 大阪文化祭賞…R7.1運営委員会にて大阪文化祭賞3件（各部門1件）大阪文化祭奨励賞6件（各部門2件）を決定し、R7.3贈呈式を開催。 <p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> 大阪文化賞および大阪文化祭賞は、大阪府内において文化芸術分野で優れた業績を挙げた人々を顕彰することにより、地域文化の発展や文化芸術の振興に大きな役割を果たしている。本賞は長い歴史を持つ権威ある顕彰であり、受賞者にとっては活動の励みとなり、大阪の文化芸術の豊かさを広く示す機会として評価できる。 今年度は大阪文化賞の推薦件数および候補者数を増加させるため、SNS等を活用した広報活動を実施した結果、府民からの推薦件数が11件、候補者数が7件増加するなど明確な成果をあげた。この取り組みは、推薦委員や選考委員だけでなく一般府民にも大阪の文化芸術活動に関心を向ける機会を提供しており、その意義は大きいと認められる。 将来に向けては、実験的な表現や分野を超えた複合的な活動も賞の対象とすることが望まれる。既存の表現分野の可能性を広げる革新的な取り組みにも注目することが重要であるため、引き続き、時代の変化に対応した審査を期待したい。
<p>織田作之助賞</p>	<p>【事業実績など】</p> <p>12月2日 青春賞公表 応募数は255編（前年336編） 12月3日 織田作之助賞候補作品の公表 12月19日 織田作之助賞決定及び公表 3月6日 織田作之助賞、青春賞の贈呈式</p> <p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> 実行委員会の中核である大阪文学振興会の体制変更に伴い、本事業の事務局体制も大きく変わったが、将来像や次世代への継承について委員会内で十分に意思共有を行い、円滑な事業推進を維持したことを高く評価する。 青春賞の応募数は、過去2年間においては300編を超えていたが、本年度は255編と例年水準となっている。これを機に応募数変動の要因分析を行い、今後の効果的な広報戦略を検討・実施してほしい。 今後の持続可能で安定した運営のため、小口支援を積極的に募るなどの新たな取り組みを継続的にを行い、本賞が未来永劫にわたり実施されるよう努めていただきたい。

<p>大阪文化芸術祭事業</p>	<p>【事業実績など】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プログラム数：17件 ※来場者数は現在集計中 <p><環境整備></p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化芸術コンテンツの磨き上げ <ul style="list-style-type: none"> OSK日本歌劇団や天満天神繁昌亭、大阪城西の丸新能2024公演の多言語化等 ・旅行商材の開発 <ul style="list-style-type: none"> OSK日本歌劇団や天満天神繁昌亭のコンテンツを含んだ旅行商材を各1本、合計2本 ・販路開拓の支援 <ul style="list-style-type: none"> ・海外の旅行会社を対象としたFAMトリップ 10月12日～14日 米・英・仏・豪4社4名 ・海外の旅行会社を対象とした商談会 10月15日 <ul style="list-style-type: none"> 参加者：海外の旅行会社4社4名、文化施設等7社12名 ・文化施設等を対象としたセミナー 11月28日 参加者：11社12名 ・国内の旅行会社を対象とした商談会 12月13日 <ul style="list-style-type: none"> 参加者：国内の旅行会社9社10名、文化施設等12社16名 ・海外に向けた広報活動 HPやSNS(Facebook、Instagram)での情報発信 SNS各8回(2月12日時点) <p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <p><大阪国際文化芸術プロジェクト></p> <ul style="list-style-type: none"> ・万博開催年度には国内外から多数の来販者が見込まれることから、大阪独自の文化芸術の魅力を発信し、インバウンドを意識したプログラムを積極的に展開したことは高く評価できる。特に、2年目となる今年度は、前年の実績を活かしたプログラムのバージョンアップに加え、旅行商品の造成や多言語でのSNS・HPの情報発信、インバウンドの集まるエリアでの広報活動など、集客面においても具体的な成果を上げている。 ・しかし、国外および府域外への情報発信については依然として課題が残るため、引き続き国内外に向けた戦略的かつ効果的な広報の充実を図ってほしい。また、興行的な集客イベントに偏りすぎると、文化芸術祭典の多様性や本来の趣旨が損なわれる恐れがあることから、今後も大阪独自の多様な文化芸術を積極的に紹介することを意識し、多くの関係者が参加できる機会創出に努めてほしい。 ・本事業は、アーティストや文化芸術団体だけでなく、アートマネジメント分野の才能ある人材が広く参加できる公共事業としての意義も大きい。事業の残り1年間で多様な人材の参加を促進し、大阪の文化芸術の真価をさらに引き出すような環境整備を進めることを期待したい。 ・来年度に迫った万博開催時の文化芸術祭典に向けては、インバウンドを含む国内外からの来販者に大阪独自の魅力が伝わるよう、引き続きプログラム内容の一層の磨き上げと効果的な広報活動を実施してほしい。 ・また、本事業のような大規模事業においては、多くの人材や事業者が関与するため、受託事業者においては厳格なコンプライアンスの遵守が徹底されているとはいえ、各種ハラスメントや労働環境等に関するモニタリングを末端まで十分にいき、市民の信頼を確保した上で事業を進めるよう引き続き注意を払ってほしい。 <p><環境整備></p> <ul style="list-style-type: none"> ・新能公演やFAMトリップ、商談会、セミナーなどの参加者への満足度調査において高い評価を得るなど、コンテンツの質の向上や環境整備の成果が現れていることを評価する。
<p>芸術創造館管理運営</p>	<p>【事業実績など】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演劇練習室稼働率（1月末現在）：71.5% ・音楽練習室稼働率（1月末現在）：56.1% ・施設利用の満足度：100%（施設と設備） 99%（スタッフ対応） <p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設利用者から提供されるサポートについて、ニーズに適切に対応しているとの評価が多く、アンケート調査では施設利用満足度が100%と極めて高い水準を達成している。特にスタッフの丁寧な対応が利用者満足度向上の大きな要因となっており、引き続き高い水準のサポートを継続していただきたい。 ・演劇練習室および音楽練習室の稼働率は、概ね目標値を達成しているが、さらなる改善の余地がある。次年度からインターネット経由で直接予約可能となる新システムの導入は、利用者の利便性を大きく向上させ、施設の稼働率向上につながることを期待される。安価で利便性の高い利用環境の整備を引き続き推進していただきたい。 ・施設開設から25年が経過し、老朽化が進んでいる中で、大阪の演劇や音楽、舞踊をはじめとする様々な舞台芸術を支える重要な役割を果たしている。今後もその役割を継続するためには、予防保全的な修繕を含む施設の改善が不可欠である。指定管理者との協議を通じ、維持管理およびサービスの一層の向上を図り、利用者にとってより魅力的な施設となるよう努めていただきたい。 ・次年度からは、大阪市の舞台芸術インキュベーション施設として芸術文化の多様な価値を広める活動や次世代アーティストの創出・育成が計画されている。この機会を活用し、施設の認知度向上と稼働率アップを図り、大阪市における舞台芸術のさらなる活性化につなげていただきたい。

②上方伝統芸能等の継承・発展

事業名	実績・評価
文楽を中心とした 古典芸能振興事業	<p>【事業実績など】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中之島文楽2024(10/25-26) 来場者数：1,228名 ・文楽キャラバン(9/28@NHK 大阪放送局アトリウム) 来場者：240名 ・文楽キャラバン(9/29@なんばCITY ガレリアコート) 来場者：320名 ・ええんちやう！文楽(10/8-9@空中庭園 空に浮かぶギャラリー) 来場者：集計中 ・ええんちやう！文楽(12/21@大阪くらしの今昔館) 来場者：集計中 ・こども本の森公演 来場者数：80名 ・フリーペーパーの発行 10,000部
	<p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「中之島文楽」では、文楽に馴染みのない市民やインバウンド観光客向けに、春夏秋冬にちなんだ4編の短い演目を創作し上演することで、文楽の敷居を下げるとともに、1編を浪曲師の真山隼人を迎えて新作浪曲の披露をするなど、文楽以外の古典芸能の魅力も併せて発信できた点は高く評価できる。 ・また、プロジェクトマッピングを用いた舞台美術には、令和3年度の咲くよこの花賞受賞者である谷原菜摘子氏を起用し、文楽劇場では実現できない現代美術との融合を実現し、芸術的にも非常に大きな成果を上げた。外国人観光客も全体の約1割を占め、今後のインバウンド観光客への可能性が示された。 ・「文楽キャラバン」や「ええんちやう文楽」では、インバウンド観光客を含む多くの観光客が集まるロケーションで、司会者や出演者による解説付きのアウトリーチ活動を実施し、文楽に触れる機会を提供できたことを評価する。一方、場所や実施時間帯により成果にばらつきが見られたため、今後はその分析結果を踏まえ、より効果的な実施方法の検討が望まれる。 ・作成されたフリーペーパーは、若手技芸員の活躍や人となり、活動の様子を写真や記事で分かりやすく伝えることにより、従来文楽の世界を想像しにくかった層にもその奥深さを訴求する内容となっており、既存ファンの維持と新規ファンの開拓に貢献している。今後はこのフリーペーパーをさらに活用し、より多くの方々への情報発信と文楽をはじめとする様々な古典芸能の普及と発展に努めてほしい。
大阪市立美術館の 魅力向上	<p>【事業実績など】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和7年3月1日にリニューアルオープンする。
	<p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年9月末から2年半にわたる大規模改修工事が滞りなく進行し、2025年3月1日に無事に開館できた点を評価したい。 ・リニューアルオープンに伴い、展示室以外を「無料ゾーン」とした空間や、日本庭園「慶沢園」を望むテラス、カフェの新設により、オープンのお披露目イベントや体験プログラムで来館者にリラックスできる魅力をアピールしてほしい。

③芸術文化による大阪の魅力向上

事業名	実績・評価
大阪クラシック	<p>【事業実績など】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9月の本公演（有料公演22公演 無料公演43公演）に加えて、今年度はプロモーション公演として市内の主要ターミナルで6月・7月・8月の3回、16公演を実施した。 ・昨年度に引き続き、「Nakanoshima CLASSIC DAY」として大阪市立中学校3校と音楽大学2校に参加してもらい、屋外での公演を実施するとともに、相愛大学の協力のもと、Zepp Namba(OSAKA)での特別公演、子供向け楽器体験ワークショップの開催を実施した。 ・来場者数 47,243 プロモーション公演 14,171 本公演（有料9,437 無料17,871 特別公演等3,578 配信2,186） 33,072 ・初めて参加した方25.3%（本公演アンケート）
	<p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9月の本公演（有料公演22公演、無料公演43公演）に加えて、市内主要ターミナルでプロモーション公演を6月・7月・8月に計3回、16公演を無事に実施できたことを評価する。 ・昨年度に引き続き、「Nakanoshima CLASSIC DAY」を開催し、市立中学校3校と音楽大学2校が参加した屋外公演を実施した。また、相愛大学の協力によりZepp Namba(OSAKA)で特別公演を開催し、子供向けの楽器体験ワークショップや市内2つのオペラ団体の出演など、プロオーケストラや吹奏楽以外のクラシック音楽団体および教育機関との連携を実現したことは特筆すべき成果である。 ・しかし、公演への初参加者割合が25.3%と低く、プロモーション公演時のアンケート結果でも認知度の低さが課題として浮き彫りになった。長年の開催によりリピーターが多い反面、「知る人ぞ知る音楽祭」となっている現状がある。今年度初めて実施したプロモーション公演やSNS広告、雑誌掲載など積極的な広報活動、会場でのほりやバックボードの設置など認知度向上に向けた取り組みを評価し、今後も継続的な努力を通じて、大阪クラシックが全国的にも知られる大阪の風物詩となることを期待したい。 ・次年度は大阪関西万博の開催期間中にあたるため、多くの来阪者を集めるための戦略的な広報活動に力を入れ、大阪のクラシック音楽文化の魅力を積極的に発信する取り組みを一層強化してほしい。

<p>大阪アジア映画祭</p>	<p>【事業実績など】 <開催前> ・上映動員数： ・初めての来場者割合： ・映画祭の満足度：</p> <p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】 ・映画ファンの間では一定の認知度を得ているものの、新規観客層の獲得に向けて、市役所、そねちか、あへのキューズモールなど人通りの多い場所での上映作品ポスター展示、梅田篇屋書店での特別パネル展示やアジア映画関連書籍のブックフェアなど、会期前からの機運醸成活動を積極的に展開している点を高く評価する。 ・関連ワークショップ「映画字幕翻訳講座」および「ご近所映画クラブ」はともに定員を超える応募があったが、新規参加者を優先的に受け付けるなどの配慮が行われていたことも評価できる。 ・本映画祭は大阪市文化課が所管する国際色豊かな重要な事業であり、大阪がアジアの文化的ハブであることを国内外に示し、文化芸術を通じた国際交流の促進に貢献している。次年は大阪・関西万博を控え、大阪発の国際映画祭としての認知度向上は重要であり、在阪の総領事館との連携企画など、さらなる国際交流促進の取り組みも期待したい。 ・初参加者が映画選びで迷わないよう、好みや気分に応じた映画選択ガイドやおやすめの周遊ルート提案など、イベントをより親しみやすくする工夫を今後取り入れてほしい。 ・映画祭としての魅力を広く伝えるため、オープニングやクローージングイベントには祝祭感あふれる演出が必要である。また、SNSやメディアを通じた積極的な情報発信を継続し、幅広い層への認知度向上を図ってほしい。</p>
<p>現代芸術振興事業 (ちょちょまうヴァ ナキュラー)</p>	<p>【事業実績など】 ◎作業場@旧今宮小学校：実施回数：19回（3月の予定含む） ◎ちょちょヴァナ：令和6年11月9日、旧今宮小学校にて開催 ◎おとあつめ：実施回数：19回、作業場と同時開催（3月の予定含む） ◎アウトリーチ / リサーチプログラム ●リサーチプログラム Webメディアの制作（ホームページリニューアル）：3月オープン予定 6月～：リサーチスタート（studio kentaro nakamuraによる現場視察、定期ミーティング等、ミーティングには大学生参加の回も設定） 12月～：コンテンツ準備、デザイン・実装作業 新アーティスト(黒川岳)プロジェクト始動予定：2月の作業場に参加 ●アウトリーチ 6月：大学生会議、大学生によるまちあるきの実施、今宮工科高校の授業スタート、高校の生徒が今池こどもの家に訪問する等の交流も実施 8月：通常オープン日と別で、大学生主導の作業準備日設定。今池こどもの家、コアメンバーで環境整備作業を実施。 10月、11月：ちょちょヴァナ開催に向けて、今池こどもの家にアウトリーチ実施 10月、山王訪問看護ステーションにて作業場のトークイベント、展示を実施。 3月：おとあつめのミュージシャンと教育機関へのアウトリーチを予定（西成高校と調整中） ◎公共文化施設を活用した創造的公共人材育成プログラム：2025年3月16日 西成区民センターにてトークイベントとして成果発表</p> <p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】 ・令和6年度より西成区が実施する「西成特区構想」のもとで、本事業の名称や目的が更新されたが、これまでの実績を継承しつつ、新たな目的を着実に達成するための活動を安定的に継続していることを高く評価したい。 ・「作業場」を19回にわたり開催したほか、「ちょちょヴァナ」の実施、地域に根差したwebメディア制作（ホームページのリニューアル）やアウトリーチプログラムを積極的に進めている。また年度末には公共文化施設を活用した創造的公共人材育成プログラムとして、5時間に及ぶトークイベントや展示会を開催するなど、活動の積極性と多様性は特筆に値する。 ・大阪府下や関西圏の学生を広く受け入れ、ソーシャルアートプロジェクトをはじめとするアートマネジメントに関する実践的学習の場を提供していることは重要である。学生たちが事業者と地域参加者の橋渡しを果たし、事業の成功を支える重要な役割を担っていることは、本事業の特色であり、今後も継続的に育成の取り組みを強化してほしい。 ・本事業の一部は、地域の児童館や高校、西成区のプレーパーク事業「にしなりジャガビーパーク」との連携を通じて、参加者に創造性豊かで制約のない表現活動の機会を提供している。これらの共同開催は、地域の未来を担う創造的公共人材の育成に寄与し、実験的で自由な表現活動を安全かつ開かれた環境で推進している点で評価できる。 ・さらに、本事業が美術や表現における既成の価値観にとらわれず、参加者自身が美しさや面白さを発見し、新たな価値を創出していくプロセスを重視している点も特筆すべきである。表現者と鑑賞者双方にとって意義深く、地域に根差した独自性のあるアートプロジェクトとして、大阪市文化課が推進する文化事業の中でも特に貴重な取り組みとなっている。 ・一方で、事業に関心を持つ市民への情報提供に改善の余地が見られる。ウェブサイトの内容充実やその他の情報発信手段を活用し、活動の具体的な内容や背景にある理念を詳細に伝える工夫が求められる。今後は活動の実施だけでなく、市民が事業を理解しやすくなるような情報発信にも力を入れていただきたい。</p>
<p>デジタル技術を活用した大阪のにぎわい創出事業（文化財魅力発信）</p>	<p>【事業実績など】 今後アンケートを行う等、効果・影響について調査を行う予定。</p> <p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】 ・昨年度の泉布館に引き続き、今年度は大阪城エリアの重要な結節点である難波宮公園において、当時の難波宮を再現した建築物を重ねて視覚化できるARアプリの開発を進め、あわせて公園内の通信環境向上を目的としたWi-Fiの設置を計画通り実施したことを評価する。 ・今後はARアプリ利用者へのアンケート調査などを積極的に行い、利用者の成果やフィードバックを収集し、その結果を踏まえて事業改善を図ることが求められる。利用者の視点に立った継続的な改善により、さらなる事業の質向上を目指してほしい。</p>

施策の方向性C「文化が社会を形成する」

①芸術文化の有する地域力向上や社会包摂の機能を生かした共生への取組みの促進

事業名	実績・評価
地域文化事業	<p>【事業実績など】 実施予定9事業に対し、1事業が中止となった。令和7年2月末現在事業実施完了し、本事業により「地域における芸術文化の水準向上」「区民への鑑賞・体験の機会の提供」などに寄与したと回答した割合は100%である。</p> <p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】 ・今年度は昨年度に引き続き8事業が実施された。新規申請があった区で事業実施前に中止となったケースは残念ながら、継続実施している8区では多くの参加者を集めて活発な活動が展開されたことを評価する。 ・未実施の区に対して、区長会議での周知や再度の意向調査など積極的な原因究明を行っている点を評価する。引き続き未実施区の応募促進に向けた努力を継続してほしい。 ・未実施の一因として挙げられる有料事業を対象とした募集について、受益者負担の考え方は理解できるが、地域に根ざした活動支援という観点から、適切な審査を経れば無料公演でも支援対象とすることは妥当であると考えられる。今後、無料公演の扱いや審査方法について再検討を行い、より柔軟かつ効果的な支援のあり方を模索してほしい。</p>
文学碑記念の集い 文学碑維持管理	<p>【文学碑記念の集い事業実績など】 来場者数 63名（定員80名に対し78.7%）</p> <p>【文学碑維持管理事業実績など】 中央区（直木三十五）、天王寺区（織田作之助）の2基について現状確認を行った。</p> <p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】 ・本年度は第一部にイラストレーターの成瀬國晴氏、第二部に浪曲師の京山幸乃さんを迎えて開催した。成瀬國晴氏が「人間国宝 桂米朝も学んだ町 今里」をテーマに、自身が20年間住んだ今里にまつわる話を披露し、後半では浪曲「暗がりの乙松」を上演。上方落語の発展に関連する「落語荘」や「漫談明朗塾」などのエピソードを交え、大阪の上方落語文化への深い理解と関係者への敬意を表す内容であり、高く評価する。 ・計画に基づき、大阪市内の文学碑のうち今年度は中央区（直木三十五）、天王寺区（織田作之助）の2基について、現状確認及び必要な整備を適切かつ滞りなく実施したことを評価する。 ・大阪は日本屈指の文学都市としての潜在力を有しているものの、その魅力が文学ファンの間にとどまりがちである。市内各所に点在する文学碑の整備を通じて、文学と地域文化を結びつけ、その価値を広く認知させる取り組みをさらに強化することが望まれる。他事業との連携により、大阪の文学的歴史を一層豊かにする可能性があるため、そのような連携にも積極的に取り組んでほしい。 ・文学碑を単なる歴史的遺物としてだけでなく、市民や観光客にとってより親しみやすい存在にする必要がある。例えば、文学と観光を結びつけた街歩きの観光パンフレット作成や教育プログラムとの連携を通じて、大阪の国語教育や地域の歴史学習に文学碑がいかにか寄与できるかを模索するなど、より実効性のある活用方法を検討していただきたい。 ・イベント参加者の62%が初めての参加者であり、90%が大阪の文化について再認識したとのアンケート結果が示され、大きな成果をあげた。本事業は「大阪は文学の街」というイメージを維持し、発展させるための重要な機会となっており、派手さはないが、参加者に意義深い体験を提供したことを評価する。 ・今後の出演者の選定については、予算が潤沢ではないものの、大阪市文化課の所管事業としての出演が出演者にとってステップアップとなる可能性があるため、例えば芸術活動振興事業助成で成果を上げた実演者に出演を依頼することが考えられる。大阪アーツカウンシルの推薦を受けることも可能であり、こうした方法は質の高い出演者を確保し、本事業の魅力をもさらに高めるとともに、大阪で活動する文化芸術関係者への実質的支援にもなる。</p>

クラシック音楽普及促進事業	<p>【事業実績など】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・貸館利用率 33.4%（令和6年12月末まで） ・「にしなりクラシック」 令和7年3月29日実施予定。 <p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大阪市西成区に位置する「大阪フィルハーモニー会館」を音楽練習や発表の場として市民に開放し、クラシック音楽の普及を目指すことは、市内におけるクラシック音楽専用の公共施設が不在である現状を考えると、音楽家や音楽愛好家に創造環境を提供するという重要な役割を担う適切な事業である。 ・「にしなりクラシック」を継続的に実施し、近年では売売が続くなど認知度の向上に努めている点は評価できる一方で、本施設が市民スタジオとして利用可能であることを知る人がまだまだ少ない現状を踏まえ、更なる認知度向上への努力が求められる。 ・本事業専用のホームページの開設までは必要ないが、事業受託者である大阪フィルハーモニー協会のホームページ内における大阪フィルハーモニー会館の利用に関するページについては、利用者がより分かりやすく必要な情報を得られるよう改善することを期待したい。 ・効果的な利用促進策として、施設利用者へのアンケート調査を実施し、ユーザーが求める機能や設備についてのフィードバックを得ることは有効な手段である。その結果を反映し、可能な限り施設サービスを改善し、より魅力的な利用環境を提供することに努める必要がある。 ・本施設は駅からのアクセスも優れており、アーティストや実演団体などからもニーズが見込まれるため、ホームページに限らずSNSなどを活用し、貸館情報（施設内容、利用可能時間帯や料金体系、使用方法など）を積極的に発信することで、貸館利用率の向上を図って欲しい。 ・西成区民に地域への誇りと愛着、そしてオーケストラへの親しみを感じてもらうための取り組みとして、区役所との連携に留まらず、地元の商店や事業所などとの連携を強化し、区民の参加促進を図る取り組みにも期待したい。
Equity&Justiceを軸としたソーシャルアートコーディネーターの育成	<p>【事業実績など】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受講生確保及び事業の認知向上のため、本事業のチラシを区役所や図書館等に配架するとともに、庁内ポータルサイトを利用して職員に向けても発信した。 <p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本年度より大阪市文化課が共催として参画することになった。人材育成、特にアートコーディネーターをはじめとするアートマネジメント人材やソーシャルアート関連の育成事業が不足する中で、本事業が大阪市文化課所管事業として位置づけられ、教育機関との連携を図る点に大きな意義がある。 ・受講生の確保と事業の認知度向上のため、チラシを区役所や図書館等に配架し、庁内ポータルサイトを活用して職員向けの情報発信も行った。その結果、昨年度147名から今年度151名（各講座の延べ人数）へと受講生数が増加し、継続して受講する参加者も確認されるなど、効果的な取り組みが行われている。 ・次年度は3ヵ年計画の最終年度であることから、更なる受講生確保と認知度向上のため、一層積極的な取り組みを期待する。

②文化財や史跡の保存・活用・継承

事業名	実績・評価
中央公会堂管理運営	<p>【事業実績など】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指定管理者との連絡調整として月1回定例会を開催し、状況を確認することが出来た。 ・貸室の利用が好調であり、大中小集会所の稼働率目標67.0%は達成見込みである。 <p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・館内ガイドツアーや周辺施設と連携した建築ガイドツアーの積極的な実施、SNS等を活用した効果的な情報発信により、中之島エリアをはじめ大阪市全体のシンボルとしての認知度向上および貸室利用の促進に努めている点を高く評価する。 ・老朽化した施設設備や備品の交換を計画的かつ継続的に実施し、利用者にとってより使いやすい環境整備を行っている。こうした努力とPR活動が奏功し、貸室利用者数や施設稼働率がコロナ禍以前の水準まで回復していることを評価する。 ・本施設は近代大阪を象徴する重要文化財であり、市民とともに育まれてきた貴重な文化的財産として、中之島エリアの文化的シンボルとしての役割を果たしている。重要文化財の保全と継承、市民文化活動の場としての機能維持という使命は、市民のシビックプライドを醸成する観点からも施設管理運営の重要性を高めている。 ・物価高騰に伴う施設の維持管理費の著しい増加が課題となっている。また、市条例により利用料の柔軟な改定が困難であるため、指定管理者の経済的負担が大きくなっている。指定管理者の状況を考慮し、持続可能な運営を確保するための適切な対応策を検討する必要がある。 ・次年度より指定管理者が変更となるが、引き続き安定した管理運営を期待したい。
史跡難波宮跡維持管理	<p>【事業実績など】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・維持管理については、ホームレス施策と連携し自立支援を行うなどし、ホームレステントの撤去を行い、ホームレスの数がゼロになった。 ・魅力発信については、北部の整備にあわせて、解説板の更新・ARの導入・wifi整備を行った。また、「なにサボ」事業については引き続き実施し、史跡難波宮跡を広く知っていただくための活動を行った。 <p>【アーツカウンシルからの主な評価・提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史的・文化的資産が豊富に集積するエリアにおいて、整備計画に基づいた安全かつ適切な維持管理が行われていることを評価する。 ・2025年3月28日にオープン予定の『難波宮跡公園「みんなのにわ」プロジェクト』及び公園と一体的に整備される商業施設『なノにわ』を契機に、本事業を通じて史跡難波宮跡の維持管理や魅力向上に一層努め、より多くの市民や観光客が大阪の歴史に触れる機会の拡充を期待したい。